

1月度の観察記録

カテゴリ : 2016年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2016-2-26

2016年1月度の観察記録です

```
Untitled Page      var gaJsHost = (("https:" == document.location.protocol) ?
"https://ssl." : "http://www.");  document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost +
"google-analytics.com/ga.js' type='text/javascript'%3E%3C/script%3E"));    var pageTracker
= _gat._getTracker("UA-3205823-1");  pageTracker._initData();
pageTracker._trackPageview();
```

雲は少しありましたが、すっきりした青空が見え、1月の観察会としては、それ程寒くない観察会日和でした。新池の水面からはすっかりスイレン（睡蓮、スイレン科）がなくなっていました。新池の土手の**センダン**は、実がクリームになり皺もよっていました。南端の土手に5羽の**ヒドリガモ**（緋鳥鴨、カモ科）があがり、何かをついばんでいました。近づくと、他の南端の4羽がいる水面まで飛びました。その近くに、カイツブリ（鳩、カイツブリ科）が1羽、オオバン（大鵜、クイナ科）が2羽とカワウ（河鵜、ウ科）が1羽いました。新池北端の張り出した樹木下の水面にも9羽のヒドリガモと周辺にカイツブリとカワウが各1羽いました。土手の樹木には、ジョウビタキ（尉鷯、ツグム科）が1羽いました。

東星ふれあい広場の北端に群生したスイセン（水仙、ヒガンバナ科）が白い花を咲かせていました。周辺の日陰では、霜が降りていました。大坂池には**カルガモ**（軽鴨、カモ科）が2羽きていました。参加者は、子供5名と大人22名でした。



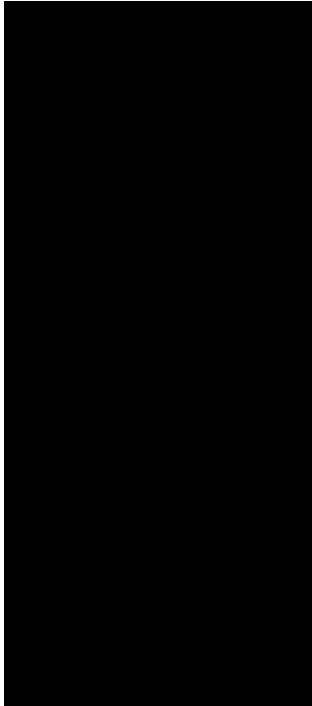


センダン ヒドリガモ 霜 カルガモ 定時の9：30に里山の家の中で，観察会が始まりました．今回は，越冬中の昆虫を観察するため，S氏が用意した虫のリストと写真集が，先月の報告と一緒に配布されました．最初に，14歳になった昆虫少年の今年の切紙カレンダーが紹介され，残部を540円で購入できるというアナウンスがありました．その後，先月の報告を皆で見ました．報告の中のシンジュキノカワガ（神樹木皮蛾，ヤガ科）は，普通のキノカワガ（木皮蛾，ヤガ科）で，シンジュキノカワガは，この冬を越せたかどうかはまだ分からないそうです．

虫好きのTさんが今回の観察会の誘導係で，最初にS氏に資料の説明をお願いしました．虫のリストは，S氏が奈良県橿原市昆虫館の観察会用に作った越冬中の昆虫リストのなごや平和公園バージョンということした．それぞれの昆虫に点数が付いており，見つけにくい昆虫ほど高得点になっていました．越冬中の昆虫を探すコツは，虫の気持ちになって探すということでした．

9：50に出発して，里山の家の倉庫の軒下のアゲハ（青条揚羽，アゲハチョウ科）の緑色の蛹（さなぎ）をまず観察しました．枯草色の蛹もあるという説明がありました．その後，近くの林の中に入り，食痕のあるクスノキ（樟，クスノキ科）の幼木を観察して，蛹を見つけるように促されました．葉の裏を丹念に皆で探して，やっと緑色のアオスジアゲハの蛹を1つ見つけました





アオスジアゲハの蛹 周辺に20cm丈くらい**セブツノ儀**(藪柑子, ヤブコウジ科)が群生していました。いくつかの株には、5mm径の小さな赤い実が数個ずつ付いていました。センリョウ(千両, センリョウ科)やマンリョウ(万両, ヤブコウジ科)のように正月飾りに使うので、十両という別名があることが話題になりました。ちなみに、一両と百両は、それぞれアリドオシ(蟻通, アカネ科)とカラタチバナ(唐橘, ヤブコウジ科)の別名です。

[【外部リンク】「 両」と名の付く樹木図鑑\(かのんの樹木図鑑\)](#)





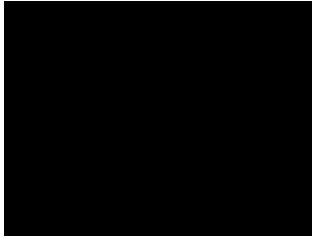
ヤブコウジ 畑班の人達が、畑を耕していた炭焼広場の角で、ソシンロウバイ（素心蠟梅，ロウバイ科）の黄色の花を観察しました．炭焼広場の溝に渡した板の裏に羽を閉じたルリタテハ（瑠璃立羽蝶，タテハチョウ科）の成虫が越冬していました．板をひっくり返して，皆で観察しました．それでもじっとして動かず，観察後は元に戻しました．





ソシンロウバイの花 越冬中のルリタテハ **ルリオオキノコ**（瑠璃大茸，オオキノコムシ科）と**ナミキセル**（並煙管，キセルガイ科）もその後，朽木で見つけました．さらに，朽木を砕いて**アカハバピロオオキノコ**（赤幅広大茸虫，オオキノコムシ科）と**ハサミムシ**（鋏虫，ハサミムシ科）も見つけました．小さな虫なのにどうして「オオキノコ」なのかという質問が出ました．「オオキノコムシ科」に属しているからという回答がありました．ちなみに，「コキノコムシ科」の虫もいます．近くの木のベンチの脚についた**ユミアシオオゴミムシダマシ**（弓脚大偽塵芥虫，ゴミムシ科）を見つけて皆で観察しました．**コカマリ**（小蟻螂，カマキリ科）の卵鞘も見つけました．





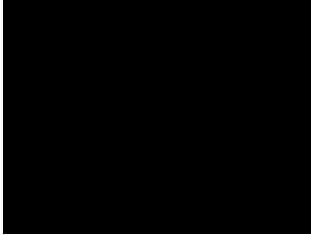
ルリオオキノコ ナミキセルガイ アカハバビロオオキノコ 葉についた**ゴマダラチョウ**（胡麻斑蝶，タテハチョウ科）の幼虫を観察した所の近くの紅梅に一輪だけ花が咲いていました。チャタテムシ（茶立虫，チャタテムシ科）を葉の上で見つけて写真を撮りました。周辺で，シジュウカラ（四十雀，シジュウカラ科），エナガ（柄長，エナガ科）およびコゲラ（小啄木鳥，キツツキ科）の鳴き声がしました。

ベンチの裏側で越冬しているルリタテハの成虫をまた見つけました。アオスジアゲハの蛹もクスノキの葉の裏でまた見つけました。

常緑の椿の葉の裏に**シジミ**（裏銀小灰，シジミチョウ科）がじっと成虫越冬しているのを，教えてもらいました。白い羽で目立つはずですが，杖で指し示してもらうまで見つけられませんでした。

芋煮会の場所**アカホシテントウ**（赤星天道虫，テントウムシ科）の抜け殻を沢山見たウメの木を観察し，アカホシテントウが成虫越冬しているのを探しました。中々見つかりませんでした。背の高さより高いところで太陽の光を受けて光っているものを見て，枝を引っ張ったところ，枝の割れ目に複数の越冬中のアカホシテントウを見つけました。周辺には，アカホシテントウの餌になるタマカイガラムシ（玉介殻虫，タマカイガラムシ科）の抜け殻がたくさん枝についていました。ここでもココマキリの卵鞘を見つけました。

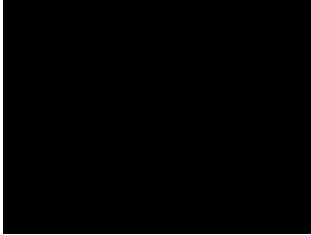




ゴマダラチョウの幼虫 ウラギンシジミ アカホシテントウ 緑色のアオオニグモ（蒼鬼蜘蛛，コガネグモ科）を葉の上で見つけました．ムラサキシジミ（紫小灰蝶，シジミチョウ科）がクマザサ（隅笹，イネ科）に止まっているのを見つけて，写真を撮りました．さらに近づくと，飛んで逃げていきました．越冬ではなく，暖かかったので飛んできてとまっていたようです．近くで，オオカマキリ（大螳螂，カマキリ科）の古い卵鞘を見つめました．フユシャクガ（冬尺蛾，シャクガ科）も葉の上で止まっていました．15mm長くらいの白い繭をここで見つけましたが，コスズメ（小雀，スズメガ科）などの蜂の繭ではないかと思いますが，はっきりとは分かりませんでした．

マルバヤナギ（丸葉柳，ヤナギ科）の幹でコムラサキ（小紫，タテハチョウ科）の幼虫を教えてもらって写真をとりましたが，小さいのと幹の色に似ていたのでファインダー越しではよくわかりませんでした．昆虫少年が，細い木の枝で，これが2本の触角だと指し示してくれました．





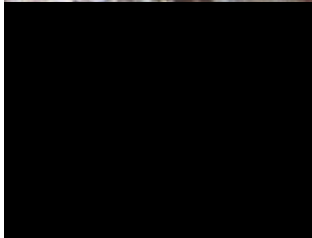
アオオニグモ ムラサキシジミ フユシャクガ

幼虫越冬を木の幹の洞で見つけました．赤い模様が異様に目立ちました．アベマキ（阿部慎，ブナ科）の林の中に入って，朽木の下の腐葉土の中に丸まった白い幼虫を探し出した参加者がいました．大きさは3 cm弱で，カブトムシ（甲虫，コガネムシ科）の幼虫はこの時期は終齢でもっと大きいので，多分**カナブン**（金蚊，コガネムシ科）の**幼虫**ではということになりました．朽木をひっくり返して，3 cm長くらいの**コクワガタ**（小鍬形，クワガタムシ科）の成虫を見つけた参加者がいて，皆で観察しました．

ヨコヅナサシガメ（横綱刺亀，サシガメ科）の

大坂池の土手の樹木の幹で，大きさが0.7mm**ドリイビミ**（緑小灰蝶，アゲハチョウ科）の卵を小さなくぼみの中に2つあるのを教えてもらいました．あまりに小さすぎてピン트가中々合いませんでした．時間が12：05になってしまい，里山の家の前で中締めをしました．配られた昆虫の写真を見て，今回の観察会でどの昆虫が見つかったかを確認しました．



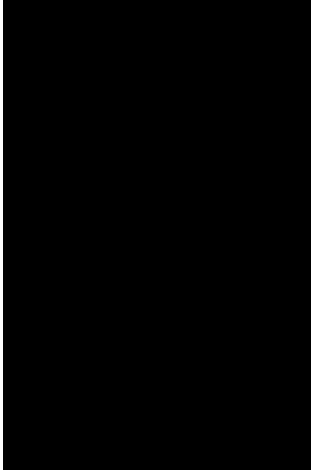


カナブンの幼虫 コクワガタ ミドリシジミの卵

そば畑まで行きました。途中で種々の昆虫を観察しました。まず、石垣近くのクスノキで、枯葉に擬態した**アカエグリバ**（赤挾羽，ヤガ科）を教えてくださいました。全くの驚きでした。羽は、枯葉色で葉脈が見え、虫食いのように端がえぐれていました。止まっているクスノキの葉だけが枯れており、教えてもらっても具体的に指摘されるまで枯葉と区別できませんでした。よく見れば脚が見えました。自然は、全く驚くべき擬態を生き物に与えたものです。

この後は、有志で平和公園外周添いを北へ、石垣のすぐ上の樹木に昨年のハラビロカミキリ（腹広蟻螂，カマキリ科）の卵鞘を、昆虫少年が見つけて、石垣を登って枝を下にたわませてくれたので写真を撮りました。マルガタゴミムシ（丸形芥虫，オサムシ科）とシンジュサン（神樹蚕，ヤママユガ科）の**抜け殻の繭**も見つけました。

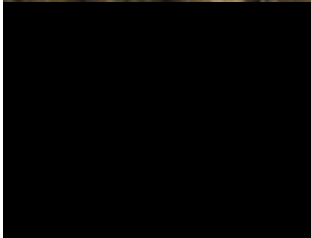




アカエグリバ シンジュサンの抜け殻の繭 石垣の縦に切った水通してホシヒメホウジャク（星姫蜂雀，スズメガ科）のいる場所を教えてくださいました。これも，実際に指し示してもらうまで，どこにいるのかわかりませんでした。羽をたたんで止まっており，とても蛾とは思えない様子でした。ヘクソカズラ（屁糞葛，アカネ科）が食草という説明がありました。

そば畑に行き，木の幹はカワガの抜け殻の繭を見つけて観察しました。すぐ上には，セミの抜け殻も幹に付いていました。ここで，私は別件があり別れて帰りました。冬には，ほとんど昆虫はいないと思っていましたが，多くの越冬昆虫を観察した充実した観察会になりました。





ホシヒメハウジャク キノカワガの抜け殻の繭 セミの抜け殻 観察項目：アオスジアゲハの蛹
、ヤブコウジ、クスノキ、ソシンロウバイ、ルリタテハ、アカハバヒロオオキノコ、ハサミムシ、
ユミアシオオゴミムシダマシ、ルリオオキノコ、コカマキリの卵鞘、ゴマダラチョウの幼虫、ウメ
、チャタテムシ、ウラギンシジミ、ツツジ、アカホシテントウ、タマカイガラムシ、アオオニグモ
、ムラサキシジミ、オオカマキリの卵鞘、フユシャクガ、コムラサキの幼虫、カナブンの幼虫？、
コクワガタ、ミドリシジミの卵、アカエグリバ、ハラヒロカマキリの古い卵鞘、マルガタゴミムシ
、シンジュサンの繭殻、ホシヒメハウジャク、キノカワガの繭殻

文・写真：伊藤義人 監修：滝川正子，田畑恭子